

## 組織目標評価報告書（令和2年度）

部局名:

岡山大学病院

部局長名:

金澤 右

目 標		目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>		
	目標に関連する 年度計画の番号	教育領域の目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
地域で活躍できる医療人を育成するため、指導体制の充実を図る。また、地域の関連病院との連携を強化するとともに、研修プログラムを充実させ、初期研修医及び専門医の獲得及び育成を推進する。 国際面での人材育成としては、国内や国際的な状況を考慮して、海外医療スタッフの受入及び研修について検討を行う。	59-1 59-2 59-3 60-1 60-2	2020年度初期臨床研修制度の改定に対応したプログラムの充実、協力型臨床研修施設との連携強化に取り組んだ。 オンラインによるオープンホスピタルやマッチング説明会を開催し、研修医獲得に向けた広報活動を継続して行った結果、マッチングの公表ではマッチ率98%と高いマッチ率を維持することができた。また、ここ数年の岡山大学歯学部生の定員や研修歯科医のマッチ率の推移を検証し、6研修プログラムの定員を見直した結果、マッチングの公表ではマッチ率100%と高いマッチ率を達成することができた。 研修医の指導体制充実のため、臨床研修指導医養成講習会を開催し、学内指導医を16名、協力型病院の指導医を7名、計23名増加するとともに指導の質向上を図ることができた。 医科及び歯科研修医がリスクマネージャー会議に出席し、情報共有する体制を整えた。 岡山大学病院で専攻医を目指す医師・医学生を対象に、医療教育センター主催で7月15日～9月30日の期間、「岡山大学病院 Cyber オープンホスピタル」をWEB開催し、全51名の参加があった。なお、希望に応じて診療科別に配布資料・動画コンテンツ配布・WEB面談の形式により当院での専門医研修プログラムに関して広く情報提供を行った。更に、新型コロナウイルス感染症対策として感染状況に応じて、院内見学および診療科との面談調整などを行い、専攻医の獲得に尽力した。 国際的な人材育成としては、新型コロナウイルス感染症の影響により各計画の中止及び延期せざるを得ない状況となったが、昨年度から継続して受入れを行っている臨床研修外国人医師等に対し、教育・研修を実施した。また、ミャンマーの医療機関と共同で婦人科病理に関するオンラインでの講義を実施し、約100名の医師が参加した。
<b>②研究領域</b>		
	目標に関連する 年度計画の番号	研究領域の目標の達成状況
ARO機能の更なる充実を図り、特定臨床研究の件数を増加させるため、臨床研究・治験の審査のサポートを推進するとともに、研究者への質の高い教育を継続的に実施することで、研究者自身の研究に対するモチベーションの向上を図り、臨床研究・医師主導治験等を促進させる。また、臨床研究法の施行に併せて発足した認定臨床研究審査委員会において、特に中国・四国地方で実施される特定臨床研究の審査等に関する支援の充実を図る。 さらに、橋渡し研究における研究拠点としての自立を目指すため、中国四国橋渡し連絡会等を通じて情報交換や連携を深めつつ、中国・四国地方を中心とした各アカデミアのシーズの掘り起こしと育成を行い、臨床研究、薬事申請へのスムーズな移行を支援する。	56-2 61-1 61-2	研究者への質の高い教育として、臨床研究法に基づく特定臨床研究の研究責任者(PI)に対して、特定臨床研究に特化した教育・研修を行った。また、独自のPI認定制度を設けており、講義形式のみではなく、e-learningでも受講可能とし、研究者の教育機会を十分確保した。(開催回数は特定臨床研究に特化した研修会は15回で受講者数は計140人、医師主導治験に特化した研修会は11回で受講者数は計117人。PI認定者数は特定臨床研究で108人、医師主導治験で53人(e-learningによる認定者も含む)。)なお、これらの研修により、研究者自身の研究に対するモチベーションの向上、臨床研究・医師主導治験等の促進を図った。 認定臨床研究審査委員会において、新規研究の審査を18件実施(昨年度は3件)しており、研究支援の充実を図った。 橋渡し研究における研究拠点として、中国四国地方のローカルネットワークを頑健なものとするべく、中国四国橋渡し連絡会等を通じて情報交換、連携を深めつつ、拠点としての自立を目指すために、シーズ・マッチング(WG1)、知財(WG2)、臨床支援(WG3)の3つのWGを設置し、様々な事案に対する検討を開始した。中国四国地方を中心とした各アカデミアの研究シーズの掘り起こしと育成に関しては、橋渡し研究における研究拠点においてシーズに関する個別相談を行うとともに、プロジェクト管理室と共同で臨床研究、薬事申請へのスムーズな移行を支援している。
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>		
	目標に関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域の目標の達成状況
地域医療連携部門の業務改善や効率化に向けて部署横断的な運用フローの見直しと改善に取り組むことで、地域医療機関との連携体制を維持し、中核的医療機関としての役割を果たす。 岡山県肝疾患診療連携拠点病院として、肝炎医療コーディネータの活動支援や教育を行うためのツールを開発する。さらに、医療従事者や患者等への相談支援を継続して行う。 先進的かつ高度な医療(臨床研究・治験を含む)および安心安全な医療を最優先にして提供する。また、次世代の術者育成を実施していくとともに、新たな先進医療の確立に努める。 医療安全および感染制御の体制を強化しながら、大学病院としての高度医療機能の発展に貢献する。 がんゲノム中核拠点病院として、連携するがんゲノム医療拠点病院・がんゲノム連携病院とともに更なるがん遺伝子パネル検査の実施を推進し、希少・難治がん患者に対し、可能な治療の提供を図る。また、がんゲノム医療の推進に必要な地域の人材の育成に努める。	55-1 55-2 56-1 57-1 57-2	これまで紹介入院患者のみであった返書のリマインドを初診患者を対象に拡大して地域医療連携部門より各診療科へリマインドを開始し、返書記載の注意点について院内で広報した。新型コロナウイルス対策のため、救急外来を除き原則紹介患者のみ受け入れ方針となっているが紹介状を持参するケースや診療科が直接受け入れるケースもあることから、トリアージに関するフローを作成・広報し、紹介用のデータベースを地域連携システムHumanBridgeに一元的に集約する運用について調整を進めた。 地域域医療ネットワーク「晴れやかネット」利用者ID取得のための院内講習会を年2回継続実施し、逆紹介率の向上を目指した「かかりつけ医推進キャンペーン」、連携先医療機関のWebでの連携依頼および聞き取り調査、患者支援部門による逆紹介アシスト(紹介先相談、予約取得手伝い)を継続して実施した。 岡山県肝疾患診療連携拠点病院として、肝炎医療コーディネーターや地域肝炎対策サポーターとの連携強化や活動状況の可視化、今後の持続的な教育に役立てるためのアプリソフトの運用を12月から開始した。県内における診療水準の向上や均てん化を図るため、医療従事者を対象とした研修会(10月開催:コロナ禍のためweb配信)を実施した。また、地域の取り組み機関である2次医療機関に所属する肝炎医療コーディネーターを対象に肝炎医療コーディネーター研修会を実施した。更に肝炎患者や患者家族を対象に新たな情報提供の手段とし肝臓病教室を動画撮影し、ホームページに期間限定で公開(2020年12月、2021年2月配信)した。なお、肝炎患者が適切な治療を受けることができるように生活場面や費用についての相談業務については引き続き実施している。 臓器移植医療センターでは、センター職員による実務会議を毎月開催し、臓器移植に関わるCOVID-19などの情報の共有と更新に努め、コロナ禍での脳死下臓器摘出術マニュアルを作成した。また、最先端医療を安全に行うため、移植の適応判定や移植前のリスク評価、移植後の検証や慢性期管理などについて、関連診療科を中心とした多職種連携のチームで検討を行った。今年度はコロナ禍で全国的に脳死下での臓器提供数が減少するなか臓器移植を28例実施し、患者の安全に努めた。 低侵襲治療センターでは、術者育成のための教育研修は計画通り7月と10月にWebで開催した。また、内視鏡外科技術認定医の資格を新たに3名が取得した。腹腔鏡、胸腔鏡による内視鏡外科手術は安全に推進できており、高い施行割合も維持している。ロボット支援手術は肺縦郭32例、食道25例、胃9例、子宮・膣14例、泌尿器75例であり、さらに9月からは膀胱、直腸のロボット手術を開始し、5例を安全に施行できている。 がんゲノム中核拠点病院として、がん遺伝子パネル検査については保険収載の影響もあり、令和3年1月6日までの実績が130件で昨年度の倍以上となっている。また、連携病院等からの依頼で行うがん遺伝子パネル検査についてのエキスパートパネルの実施件数は、令和3年1月6日までの実績が333件となっており昨年度の1.5倍以上となっている。国立がん研究センター中央病院が研究代表となる特定臨床研究「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養」については、令和3年1月6日までの実績で8名の研究同意を取得し、うち6名が治療へと進んでおり、6症例に該当する薬剤を投与した一部の症例で奏効を認めている。また、新規のTSO500パネルを用いた新規がん遺伝子パネル検査の臨床応用を目指した先進医療については、令和2年11月30日の官報告示後の12月1日から当院で先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を開始した。令和3年1月7日現在で4症例の登録と開始状況は順調である。がんゲノム医療の社会実装に必要な地域の人材育成を目的として遺伝子パネル検査における二次的所見(生殖細胞系列変異)についての講習会を3回開催し、優れた医療人の育成を図った。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、2020年3月に院内へ新型コロナウイルス対策チーム会議を設置した。また、その中にICTチーム(感染対策)・ERTチーム(患者受入)・BCTチーム(ベッドコントロール)の3チームを立ち上げて個別事項を検討し、本会議で方針を決定している。本会議には岡山県保健福祉部及び岡山市立市民病院も参加し、毎週木曜日に対策チーム会議を実施し、院内・院外における対策・方針を協議・決定している。 新型コロナウイルス感染症の岡山市内における感染拡大に対応するため2020年4月、「岡山市内急性期7病院新型コロナウイルス対策協議会」(2020年9月から「岡山新型コロナウイルス対応者会議」に名称変更し、圏域を県内に拡大)を立ち上げた。現在は、岡山市立市民病院、岡山大学病院、岡山済生会総合病院、岡山医療センター、岡山赤十字病院、川崎医科大学総合医療センター、川崎医科大学附属病院、倉敷中央病院、津山中央病院、岡山県精神科医療センター、岡山大学疫学・衛生学分野の専門家、岡山県及び岡山市保健所と毎週水曜日にオンラインで会議を実施して詳細な情報共有を行い、各病院の方針決定・運営に資している。また、「新型コロナウイルス感染症患者が宿泊施設で療養を行う場合の健康管理業務委託契約」を岡山県と締結し、ホテル療養している患者の健康管理をオンラインで行っている。 新型コロナウイルス患者の受入れに関しては、県からの要請により重症患者用病床を10床、中等症以下患者用を16床確保し、2月末までに55人(うち重症11人)の患者を受入れた。
<b>④管理運営領域</b>		
	目標に関連する 年度計画の番号	管理運営領域の目標の達成状況
経営戦略会議・執行部会議において、経営指標等について分析を行い、MBO(目標管理)を実施して各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックし、病院経営の安定化を図る。 医療材料や医薬品等の経費について分析・検討し、値引き交渉を行う等、コスト削減に努める。	62-1 63-1	経営戦略会議・執行部会議において、病床稼働率、外来患者数、診療費用請求額、診療経費、手術件数等の経営指標について検証・分析を行った。また、MBO(目標管理)の達成状況について、各科の病院収益等の経営状況を確認・フィードバックを行うことで、新型コロナウイルス感染症への対応で減収を余儀なくされたものの、病院経営の安定化に努めた。また、病院長会議データベースセンターの「病院資料」を活用して他大学とのベンチマーク分析を行い、アフターコロナ・地域医療構想を見据えた病床削減(病床再編)及び看護師削減計画等に役立てた。 医療材料・医薬品については、値引き交渉等を行った結果、医療材料については、購入額(税抜き)で対前年度1,437万円(R02.12末現在)の削減効果、医薬品については、上半期(4～9月)対薬価額(税抜き)で4億5,621万円、値引率(税抜き)12.42%の削減、下半期(10～12月)で対薬価額(税抜き)で2億4,059万円、値引率(税抜き)12.26%の削減効果を得た。